

5年間で市民の生活実感が大きく変化した項目

1. 生活実感項目の回答に顕著な変化があった設問

(1) 市全体の回答の中で顕著な変化があった設問

130の生活実感項目のうち、市全体の平均値が5年間で特に大きく変化したものを選定した。方法としては、統計的分析手法である「カイ二乗検定」と「トレンド検定」(※)を用いて該当する設問をまず選び出し、次に有意水準0.1%未満であるものを「顕著な変化があった設問」とした。これにより、マクロに市全体での5年間の推移と、中でも特に大きく変化したものに注目することができる。

抽出した設問数は6問であり、すべてについて概説する。

(2) 属性ごとの回答の中で特徴的に大きく変化した設問

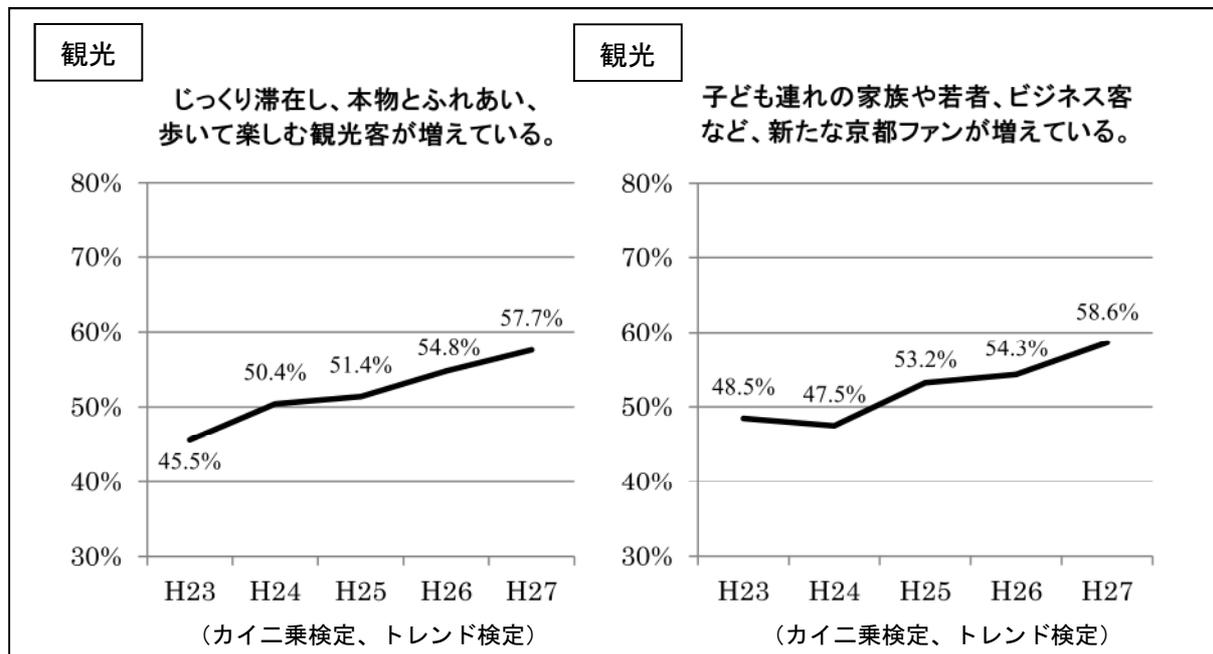
一方、もっとミクロに回答者の属性(世代別・性別、行政区別、職業別、居住年数別)に基づいて詳細に分析してみると、幅広い属性において生活実感が変化した設問や特定の属性においてのみ飛び抜けて変化した設問などが得られる。そこで「カイ二乗検定」と「トレンド検定」で大きな変化が認められた設問のうち、有意水準1%未満(先に適用した水準である0.1%未満よりも10倍ゆるい水準)に該当したものについて示した。

抽出した設問数は18問であり、特徴的なものをいくつか取り上げて概説する。

すべての図の縦軸は各設問への肯定的回答の割合(「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計)の値、横軸は年度であり、該当する検定方法も示している。

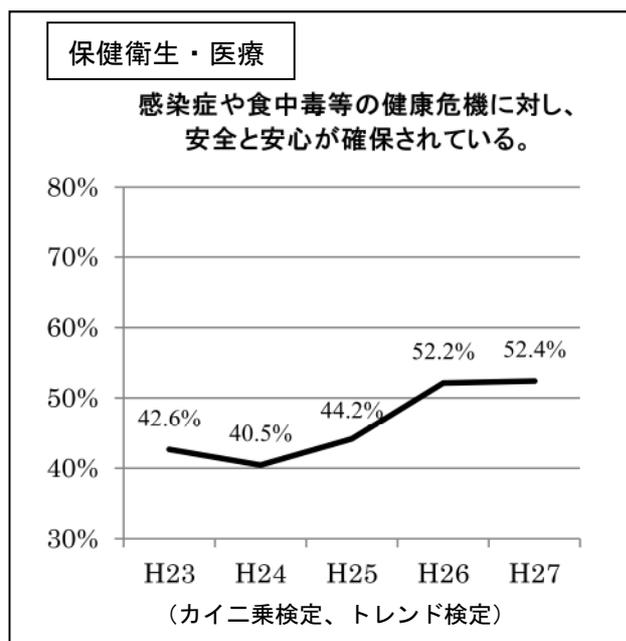
(1) 市全体の回答の中で顕著な変化があった設問

① 政策分野『観光』



政策分野『観光』のうち「じっくり滞在し、本物とふれあい、歩いて楽しむ観光客が増えている。」と「子ども連れの家族や若者、ビジネス客など、新たな京都ファンが増えている。」の生活実感は、5年間ほぼ一貫して上昇している。京都市民は市内での観光客の増加を実感しているため、このように回答したと考えられる。

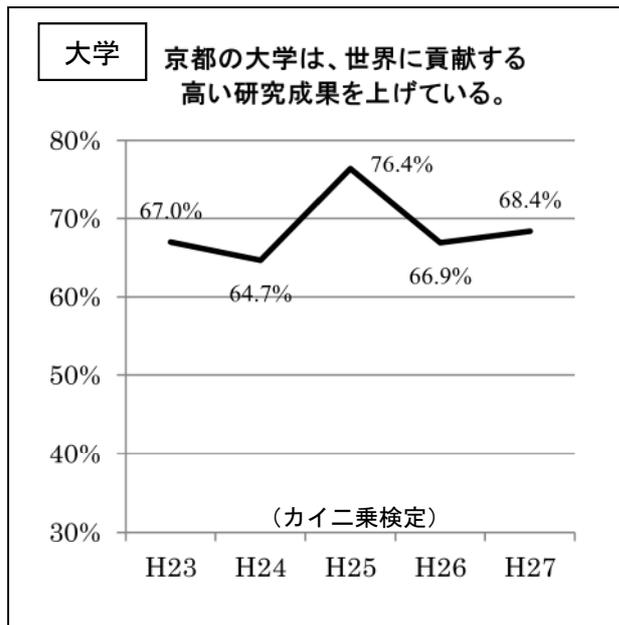
② 政策分野『保健衛生・医療』



政策分野『保健衛生・医療』のうち「感染症や食中毒等の健康危機に対し、安全と安心が確保されている。」の生活実感は24年度に一度低下し、その後ほぼ一貫して上昇している。

24年度の低下は、23年に発生した、飲食チェーン店における牛肉の生食による腸管出血性大腸菌O111食中毒事件などによって食の安全が揺るがされたことが原因の一つではないかと思われるが、行政の取組が奏功していることなどにより著しい低下とはならず、その後上昇に転じたのではないだろうか。

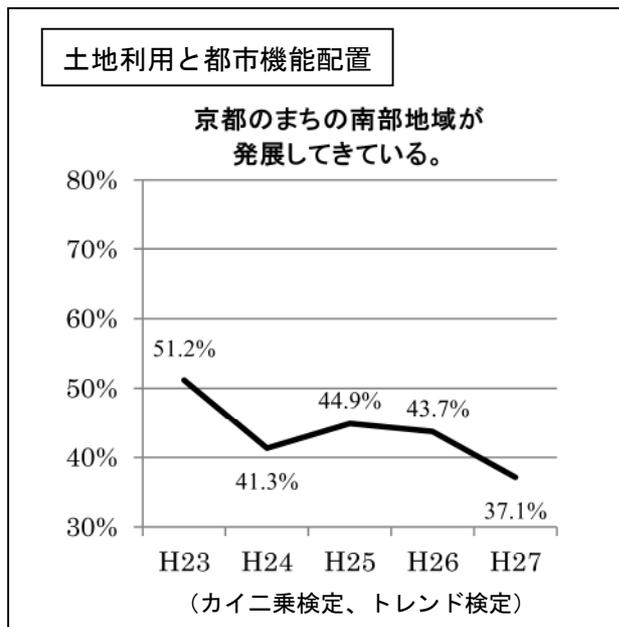
③ 政策分野『大学』



政策分野『大学』のうち「京都の大学は、世界に貢献する高い研究成果を上げている。」の生活実感については、京都大学の山中伸弥教授がノーベル生理学・医学賞を受賞した翌年度である25年度に大幅に上昇したと思われる。しかし26年度以降は平均的な値に戻っている（カイニ乗検定※では著しい変化といえたが、トレンド検定※では著しい変化と認められなかった）。

市民の生活実感は社会で起こった出来事の影響を大きく受けることが見て取れる。

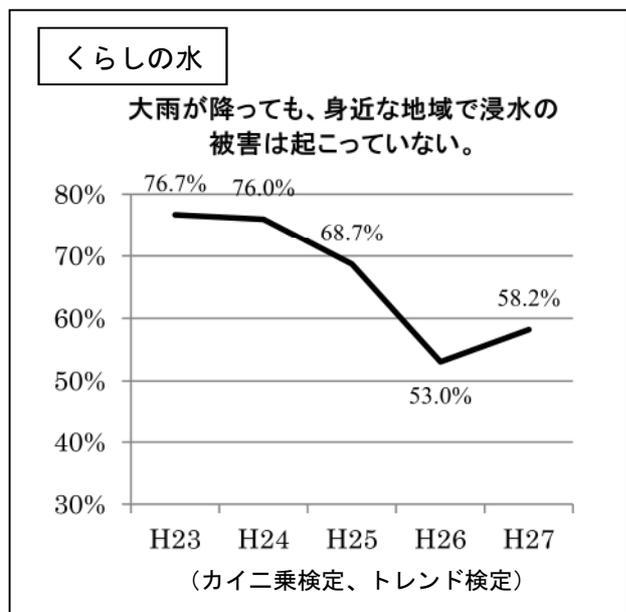
④ 政策分野『土地利用と都市機能配置』



政策分野『土地利用と都市機能配置』のうち「京都のまちの南部地域が発展してきている。」の生活実感は、24年度に著しく低下したのち、翌年度に持ち直すものの減少傾向は変わらず、27年度には最低値を記録した。

京都市による事業はこれまで多く実施されているものの、市民が実感するまでには十分に至っていないのではないだろうか。

⑤ 政策分野『くらしの水』



政策分野『くらしの水』のうち「大雨が降っても、身近な地域で浸水の被害は起こっていない。」の生活実感は、全130項目の中で最も大きな変化（下降）を見せた。

これは25年の台風18号によって嵐山が広域に浸水したり、地下鉄御陵駅が水没するなど被害がかなり深刻だったため、翌26年度に肯定的回答率が大幅に低下したものと考えられる。

※注

5年間の回答状況に対して、偶然ではなく、なんらかの要因により必然的に起こった変化と考えられる設問を把握するため、統計的分析手法である「カイニ乗検定」と「トレンド検定」を用いた。

カイニ乗検定とは、期待値と観測値との差の有無を調べるものであり、ここでは各年度における肯定的回答の割合に差があるかどうかを検定している。一律の増加／減少傾向があればもちろん、なくても、特定の年度だけ肯定的回答割合が突出しているものを検出することができる。

トレンド検定とは、増加傾向あるいは減少傾向の有無を調べるものであり、ここではマンテル＝ヘンツェルのトレンド検定を用いている。一律の増加あるいは減少の傾向があるもののみ検出することができる。

これら2種類の検定によって抽出した項目のうち、有意水準0.1%未満のものを「変化の幅が誤差の範囲を超えて著しく変化した」と定義。

(2) 属性ごとの回答の中で特徴的に大きく変化した設問

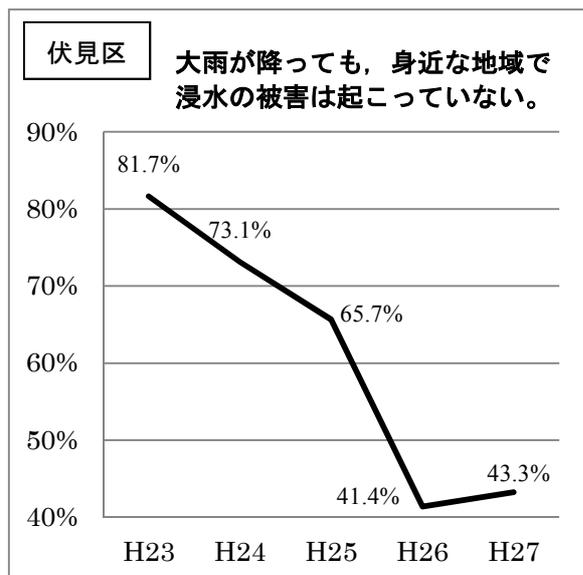
1) 幅広い属性において生活実感がプラス方向に大きく変化した設問

(すべてカイ二乗検定とトレンド検定の双方に該当)

① 政策分野『くらしの水』

「大雨が降っても、身近な地域で浸水の被害は起こっていない。」

17属性（市全体、世代別・性別の全6属性、山科区、右京区、伏見区、自営業・自由業、会社員・公務員、主婦・主夫、無職、居住年数5～11年未満、同11～31年未満、同31年以上）で該当。



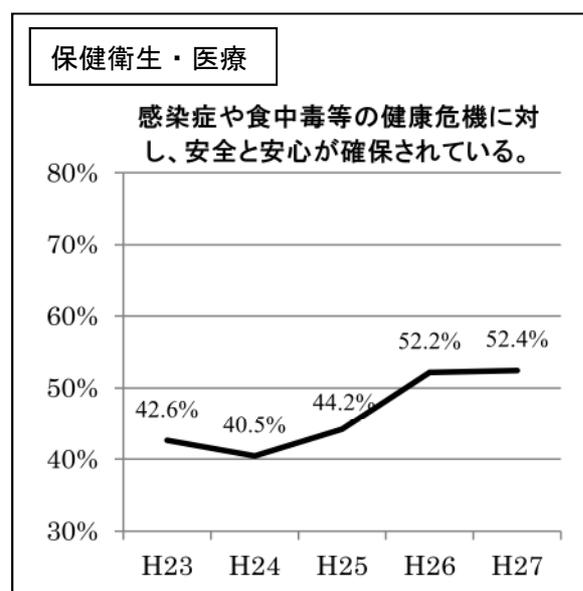
生活実感の市全体における平均値の推移は前掲したため省略するが、全130項目中最多の17属性で大きく低下しており、25年9月の台風18号による浸水被害が市民生活に大きな影響を与えたかを示している。

ここでは伏見区における生活実感のグラフを掲載する。伏見区ではこの台風により広範な地域で床上・床下浸水などの被害が発生したため、26年度に生活実感が大幅に低下したことが読み取れる。

② 政策分野『保健衛生・医療』

「感染症や食中毒等の健康危機に対し、安全と安心が確保されている。」

5属性（市全体、伏見区、会社員・公務員、主婦・主夫、居住年数31年以上）で該当。



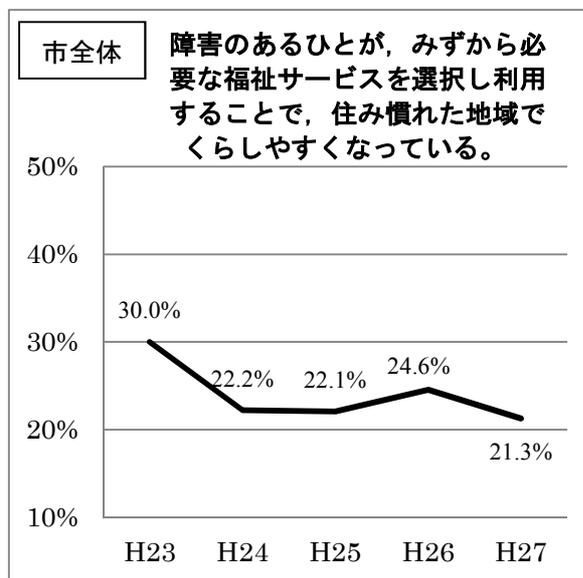
生活実感の市全体における平均値の推移を再掲するが、市全体で生活実感が大きく上昇しているということは、行政・企業・団体・個人などが協力しあって健康に対する取組を進めていることが評価されていると考えられる。

2) 生活実感がマイナス方向に大きく変化した設問

① 政策分野『障害者福祉』

「障害のあるひとが、みずから必要な福祉サービスを選択し利用することで、住み慣れた地域でくらしやすくなっている。」

2属性（市全体、伏見区）で該当。

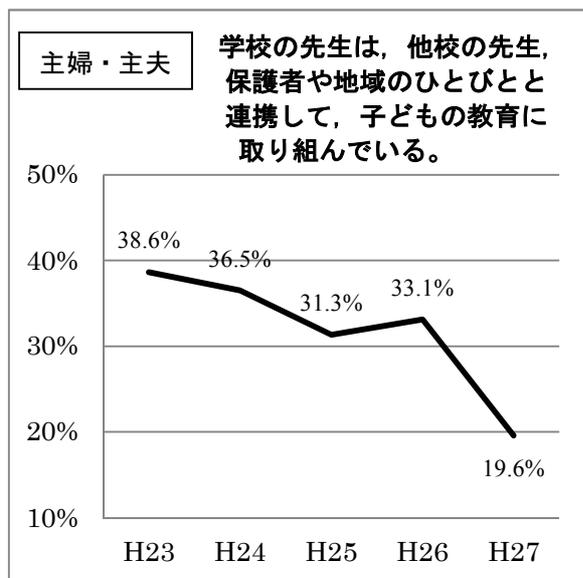


生活実感の市全体における平均値の推移を再掲するが、途中の26年度にわずかな持ち直しが見られたものの、期間全体としては低下している。この結果は偶然ではなく何らかの要因により起こった変化と考えられるため、変化の前後における法律改正や、市の政策の変化などを検証することで、改善のためのヒントが得られる可能性がある。

② 政策分野『学校教育』

「学校の先生は、他校の先生、保護者や地域のひとびとと連携して、子どもの教育に取り組んでいる。」

1属性（主婦・主夫）のみ該当。



生活実感の主婦・主夫における平均値の推移を掲載する。児童や生徒の保護者が多く属すると考えられる主婦・主夫において著しい低下が見られた。

生活実感に大きな変化があった設問のうち、該当する属性数が多い順に並べた表を以下に示す。変化の状況を示す指標として、過去5年間の生活実感の肯定的回答割合の「変動幅」（期間中の**最大値と最小値の差**。肯定的回答割合がどの程度の幅で変動しているかがわかる）と「変化」（**23年度の値と27年度の値との差**。肯定的回答割合が5年間でどの程度変化したかがわかる）を掲載している。変動幅はプラスの値しか存在しないが、変化はマイナスの値もありうる。

生活実感に大きな変化があった設問と属性の一覧

政策分野	設問項目	属性	変動幅	変化
くらしの水	大雨が降っても、身近な地域で浸水の被害は起こっていない。	市全体	23.5%	-18.3%
		若年層男性	40.1%	-17.6%
		若年層女性	36.9%	-13.7%
		中年層男性	31.9%	-19.7%
		中年層女性	32.2%	-32.2%
		高年層男性	17.5%	-17.3%
		高年層女性	18.2%	-11.5%
		山科区	32.4%	-17.6%
		右京区	34.5%	-17.4%
		伏見区	40.2%	-38.4%
		自営業・自由業	32.9%	-18.0%
		会社員・公務員等	29.2%	-26.3%
		主婦・主夫	21.6%	-13.7%
		無職	18.6%	-18.1%
		5～11年未満	36.7%	-26.6%
		11～31年未満	29.5%	-23.7%
31年以上	21.5%	-17.0%		
保健衛生・医療	感染症や食中毒等の健康危機に対し、安全と安心が確保されている。	市全体	12.5%	+9.9%
		伏見区	23.5%	+19.2%
		会社員・公務員等	17.4%	+13.8%
		主婦・主夫	24.7%	+16.7%
		31年以上	15.4%	+12.0%
観光	子ども連れの家族や若者、ビジネス客など、新たな京都ファンが増えている。	市全体	11.2%	+10.4%
		自営業・自由業	30.5%	+26.1%
		主婦・主夫	22.1%	+22.1%
		31年以上	13.2%	+13.1%
文化	市民の生活に文化芸術がとけ込んでいる。	市全体	8.5%	+8.5%
		会社員・公務員等	15.8%	+13.2%
		11～31年未満	21.6%	+21.6%

政策分野	設問項目	属性	変動幅	変化
観光	じっくり滞在し、ほんものとふれあい、歩いて楽しむ観光客が増えている。	市全体	12.5%	+12.5%
		主婦・主夫	22.2%	+22.2%
		31年以上	13.6%	+13.6%
産業・商業	京都では、産業界・大学・行政などが連携して、企業の誘致や事業環境の整備を進めている。	市全体	10.7%	+7.0%
		31年以上	13.5%	+8.5%
障害者福祉	障害のあるひとが、みずから必要な福祉サービスを選択し利用することで、住み慣れた地域でくらしやすくなっている。	市全体	8.7%	-8.7%
		伏見区	19.4%	-19.4%
都市機能	京都のまちの南部地域が発展してきている。	市全体	13.9%	-13.9%
		11～31年未満	22.2%	-22.2%
環境	「きれいな空気、清らかな川、静かなまち」など、よい環境が保たれている。	市全体	11.5%	+9.4%
環境	京都では、環境にやさしい行動を当たり前のこととして実践するひとや事業者が増えている。	市全体	11.1%	+6.3%
市民生活とコミュニティ	地域の一員として安心してくらしをまねかせるまちになっている。	市全体	11.3%	+4.6%
市民生活の安全	事故や犯罪を防ぐための自治会や警察、京都市などの取組により、安全にくらしをまねかせるまちになっている。	31年以上	13.8%	+5.9%
子育て支援	必要なときに健康相談を受けたり、病院に行けたり、安心して子どもを生み育てることができる。	右京区	35.0%	+15.5%
学校教育	学校の先生は、他校の先生、保護者や地域のひとびとと連携して、子どもの教育に取り組んでいる。	主婦・主夫	19.1%	-19.1%
歩くまち	地下鉄、市バスは、市民生活に役立っている。	5～11年未満	36.0%	+17.0%
景観	大通りや歴史的地区から電柱が取り除かれ、美しい公共空間が増えてきている。	若年層女性	27.4%	+15.9%
建築物	地震や火災に強い建物が増えている。	31年以上	13.5%	+6.4%
くらしの水	京都の上下水道は、経営が安定しており、将来も安心して使い続けることができる。	北区	33.1%	+15.0%